



瑞聖寺 ずいしょうじ

公式サイト http://www.zuisho-ji.or.jp/index_pc.html

アクセス <http://www.zuisho-ji.or.jp/access.html>

寺院名	紫雲山 瑞聖寺
住職	古市義伸
宗派	禅宗
本尊仏	釈迦牟尼如来
創立	寛文 10 年(1670 年)
由緒	木庵禅師開山 青木端山居士開基
所在	東京都港区白金台 3-2-19
電話	03-3443-5525
ファックス	03-3447-5526

【概況】

紫雲山瑞聖寺は、東京都港区白金台 3 - 2 - 19 に所在し、宇治萬福寺を本山とする黄檗宗寺院であった。

当寺は、「本山の光景を模擬する所にして、其経営頗る他に異なり、江戸黄檗宗寺院最初創建の伽藍」(『江戸名所図会』)として注目されるものである。

瑞聖寺への交通は、JR 東日本山手線を利用すれば便利であり、目黒駅で下車してから目黒通りを東に歩いて約 15 分の位置にある。

また、近年地下鉄も開通し、都営三田・南北線白金台駅を利用すれば、駅から徒歩 1 分である。

瑞聖寺の入口は、現在目黒通りに面しているが、この入口はかつて裏口であり、表門は区道(補助 10 号線)に面していた。

入口には目黒通りから少し入った位置に一間一戸、切妻造・棧瓦葺の高麗門形式の通用門が立っていたが、旧山門の位置に移築し、ここには新しく門を新築した。

通用門は少なくとも明治 18 年以前は直接目黒通りに面し、裏門と呼ばれていた。

門を潜って少し歩くと右手に鐘楼および大雄宝殿が見えてくる。

鐘楼は方一間、入母屋造・棧瓦葺であり、明治18年（1885）に建立されたものである。
梵鐘は第二次世界大戦中に国に供出したため昭和63年に新しく鑄造されたものが釣られている。
大雄宝殿は桁行三間・梁行四間・裳階付・入母屋造・本瓦葺・東面の大規模な仏殿であり、
宝暦7年（1757）に建立されたものである。

本尊は釈迦如来であり、脇士として阿難・迦葉が安置されている。
また大雄宝殿の南方には寺務所が建ち、北方には民家が建っている。
また大雄宝殿正面北側に布袋間が設けられていた（本尊間北側に移設）が、
これは瑞聖寺布袋尊が山手七福神（滝泉寺恵比寿尊、蟠龍寺弁財天、大円寺大黒天、妙円寺福祿寿・寿
老人、
瑞聖寺布袋尊、覚林寺毘沙門天）の一つであることから、
布袋信仰が庶民の中で盛んであったことを物語るものであり、現在でも正月には多くの参詣者で賑っ
ている。

国指定重要文化財（建造物）

瑞聖寺大雄宝殿

附通用門一棟

指定 平成四年八月十日

紫雲山瑞聖寺は、江戸で最初の黄檗宗の寺院で、寛文一〇年（一六七〇）から建設に着手し、翌年諸堂が完成しました。創建伽藍は享保十一年（一七二六）と延享二年（一七四五）の二回の火災で大きな被害を受けましたが、文化年間（一八〇四〜一八一八）に再び整備されました。

大雄宝殿は黄檗宗寺院の中心的建物で、身舎の外側に裳階を廻らせ、身舎の屋根は入母屋造、本瓦葺で、寺格にふさわしい雄大な規模を持つ黄檗建築の仏殿です。棟札から宝暦七年（一七五七）の再建と推定され、その後、何度か修理が行われました。二重屋根の外観や細部意匠に黄檗建築の特徴を保ちながら、組物の簡略化、正面吹放部分の化粧軒裏天井、背面一間通りの吹放、内部の両脇に畳敷床を設けるなどの特徴があり、江戸市の中に残された数少ない本格的仏堂建築として貴重な存在です。昭和六十年（一九八五）から六三年にかけて解体修理が行われ、仏壇回りを除いて往時の雄大な姿が再現されています。

大雄宝殿（だいゆうほうでん）は、黄檗宗寺院の中心的建物で、江戸に残された数少ない本格的仏堂建築です。仏殿で、身舎（もや）の外側に裳階を巡らせています。

屋根は入母屋造り、本瓦葺きで、寺格にふさわしい

紫雲山瑞聖寺は、東京都港区白金台3-2-19に所在し、宇治萬福寺を本山とする、江戸では初めての黄檗宗寺院です。

現在の山門は、目黒通りに面していますが、ここはもともとは裏門でした。二度火災で消失しましたが、宝暦7年（1757）に仏殿が再建された後に立てられた裏門は、元の山門後に移築され、衰退時期もありましたが新たに表門が立てられました。

明治10年（1877）の境内絵図面に大殿、庫裡、霊屋二棟、祠堂、表門、裏門が描かれていますので、二度目の火災以降の建物かどうかはわからないようで、明治18年（1885）には、鐘楼が再建されています。大雄宝殿は、東京都有形文化財指定の後、平成4年8月（1992）に、国指定重要文化財として指定されました。

【沿革】

紫雲山瑞聖寺は、本山である黄檗山萬福寺の開山隠元の弟子木庵和尚（萬福寺二世）を開山として、寛文10年（1670）に創立された。

伽藍は青木甲斐守によって寛文10年5月より建立が開始され、

翌11年4月には山門・大殿・方丈・左右大小寮舎が落成し、同年6月15日に木庵を請じて開山とした。

延宝8年（1680）には下谷池端瑞錦袋円の元祖了翁僧都により経蔵が建立され、唐本の一切経が納められた。また同年冬には僧堂が落成している。

塔頭の竹巖院は、開基青木甲斐守によって天和3年（1683）に開創され、

さらに当寺二世鉄牛和尚によって微笑院、三世慧極明和尚によって慈光院が建立された。

その後瑞聖寺は再々火災に見舞われた。

文献上から知れる火災は、享保11年（1726）が最初であり、

このとき大殿、山門、方丈、左大寮舎、微笑院を焼失した。

そして享保14年（1729）には大殿の再建に着手し、同17年（1732）に上梁している。

また同16年（1731）に方丈、同18年（1733）に開山堂を再建し、次第に伽藍を復興していった。

しかしながら、第二の火災が延享2年（1745）にあり、

おそらく創建当時の伽藍を完全に復興する以前に羅災し、再び諸堂を焼失したであろう。

延享の火災後、宝暦7年（1757）に仏殿が再建され、明和2年（1765）に天王殿、

同5年（1768）に開山堂、同6年（1769）に鐘楼、安永2年（1771）に祠堂、

同9年（1780）に齋堂兼庫裏、文化元年（1804）に禅堂がそれぞれ再建され、

文政11年（1828）には、仏殿、天王殿、方丈、禅堂の他に庫裡、惣祠堂、経蔵、鐘楼、

門番所付表門および裏門、諸侯方霊屋八字、鎮守八幡宮などの建物、

あるいは微笑院、竹巖院、慈光院などの塔頭が整備され、瑞聖寺創立以来再び、江戸名所図会にみられるような壮大な伽藍景観が形成されたといえよう。

この壮大な伽藍は、それほど長く維持することができず、

安政2年（1855）の大地震、同3年（1856）の大風雨により諸堂が大破し、

おそらく明治維新の大変革期にさらに諸堂を失ったであろう。

明治期の瑞聖寺は、明治10年（1877）の境内絵図面に書かれている大殿、庫裡、靈屋二棟、祠堂、表門、

裏門がかろうじて残ったにすぎず、その後旧規に復興することもままならず、わずかに明治18年（1885）に鐘楼が再建されている。

戦後、昭和42年（1967）に庫裡が、新しく寺務所を兼ねて建て替えられ現在の状況に至っている。

また昭和59年（1984）に大雄宝殿が東京都有形文化財に指定され、平成4年8月（1992）に国指定重要文化財に指定され、現在に至っている。

七福神巡り

<http://www.zuisho-ji.or.jp/seven/main.html>

七福神信仰は室町時代の中ごろから起り、始めは恵比寿・大黒天が信仰され、江戸時代中期には庶民にとっては娯楽の一つとして多くの方に親しまれて今の七福神の形が定着致しました。

『江戸最初 山手七福神』は江戸城の裏鬼門守護のために建立され、将軍の鷹狩りの際に参詣した「目黒の不動堂（龍泉寺）」の参詣道筋に設置された江戸時代から続く江戸最初の七福神巡りです。

「七福神」はインド・中国・日本の福を授ける神仏を七体集め、全ての人々が望む「願い」を聞き御利益を与えてくれる日本独特の信仰ですが、特に『江戸最初 山手七福神』では赤色の寺院（「恵比寿」「大黒天」「弁財天」）から青色の寺院へお参りするのを「商売繁盛祈願」、また青色の寺院（「毘沙門天」「布袋尊」「寿老人」「福祿寿」）から赤色の寺院へお参りするのを「無病息災・長寿祈願」として御利益があると言われております。

庶民たちは元旦から七草までのあいだに近くの七福神をめぐり歩き、一年間の「家内安全」「無病息災」「商売繁盛」などを祈願しました。

参詣の心得 1.七福神をお参りする際には、最初に各寺院の本尊様にお参りしましょう。

2. ご朱印をお願いする場合はお参りの前に預けましょう。
3. 七福神や本尊様が祀ってある場所以外は許可なく立ち入るのは止めましょう。
4. それぞれのお寺により作法があるので分からない場合はお聞きしましょう。
5. 歴史的建造物があるので、境内での喫煙やゴミのポイ捨ては止めましょう。

